

平成 20 年 7 月 29 日(火)

## 祭時大橋の落橋メカニズムについて

平成 20 年 6 月 14 日 8 時 43 分頃に発生した岩手・宮城内陸地震で落橋した祭時(まつるべ)大橋の落橋に至る経緯の推定結果についてまとめる。

### 着目点

支承周りの損傷状況から、上部構造と下部構造の相対変形を推定



【河北新報社】[http://www.kahoku.co.jp/spe/spe\\_sys1029/20080617\\_13.htm](http://www.kahoku.co.jp/spe/spe_sys1029/20080617_13.htm)

岩手日報

### 年内に祭時大橋解体撤去 被災状況調査検討委

岩手・宮城内陸地震で、落橋した国道342号の祭時(まつるべ)大橋=一関市巣美町=の被災メカニズムを解明する県の被災状況調査検討委員会は25日、同市内の催事場で初会合を開いた。県は、落橋のメカニズム分析などのため、年内をめどに谷底に崩落した橋を解体、撤去する方針を示した。

検討委は大学教授ら専門家7人で構成。委員長に鈴木基行東北大学院工学研究科教授を選出した。

県の担当者が橋の測量結果や周辺の地質調査を報告。橋脚などの耐力を算出するなどして、被災メカニズムを推定する検討方針案を示した。

委員からは「時間がたつと状況が変化してしまう。(緊急度に応じて)調査にメリハリをつけることが必要」などの意見が出された。

県は橋の調査と並行して解体、撤去を進める方針も説明。県道路環境課の加藤裕維持担当課長は「崩落した橋が沢をせき止めていることもあるので解体が必要。せめて年内には、けたなど上の部分を撤去したい」と述べた。

検討委は年内に計3回開催。崩落したメカニズムをさまざまな角度から分析し、架け直す橋の設計などに反映させる。

(2008/07/26)

河北新報社 岩手のニュース

### 祭時大橋9月めど解体調査 検討委初会合 一関

岩手・宮城内陸地震で崩落した岩手県一関市巣美町の国道342号の祭時(まつるべ)大橋の被災メカニズムの解明を目指す岩手県の調査検討委員会は25日、一関市で初会合を開いた。

耐震や橋の構造が専門の東北大学院や岩手大の教授ら7人で構成。現地調査後の初会合では、委員長に就任した鈴木基行東北大学院教授が「被害状況を詳細に調べ、新しい橋の建設に生かしたい」と述べた。

検討委は県から橋周辺の地質などについて説明を受けた後、検討手順を確認。9月をめどに橋の解体調査や材料の強度性試験などを行い、12月までにメカニズムを解明し、復旧に当たる県に提言することにした。

委員からは「地盤の動き方も把握した方が良い」「メカニズム解明は試験結果だけにとらわれず、実態調査に重点を置いて総合的に判断すべきだ」との指摘もあった。

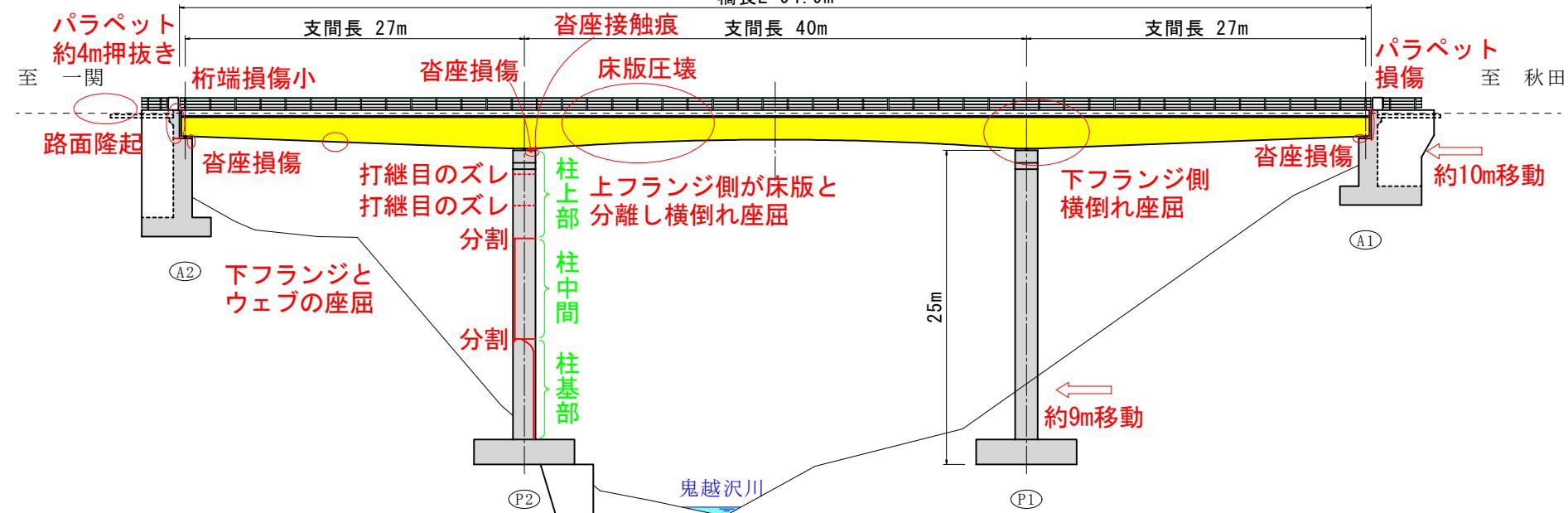
祭時大橋については、国道342号全体の復旧方法を探る県の別の技術検討委が「別の場所に架け替えるべきだ」と県に求めている。

2008年07月26日土曜日

## 国道342号 祭時大橋側面図

地震前

橋長L=94.9m



地震後

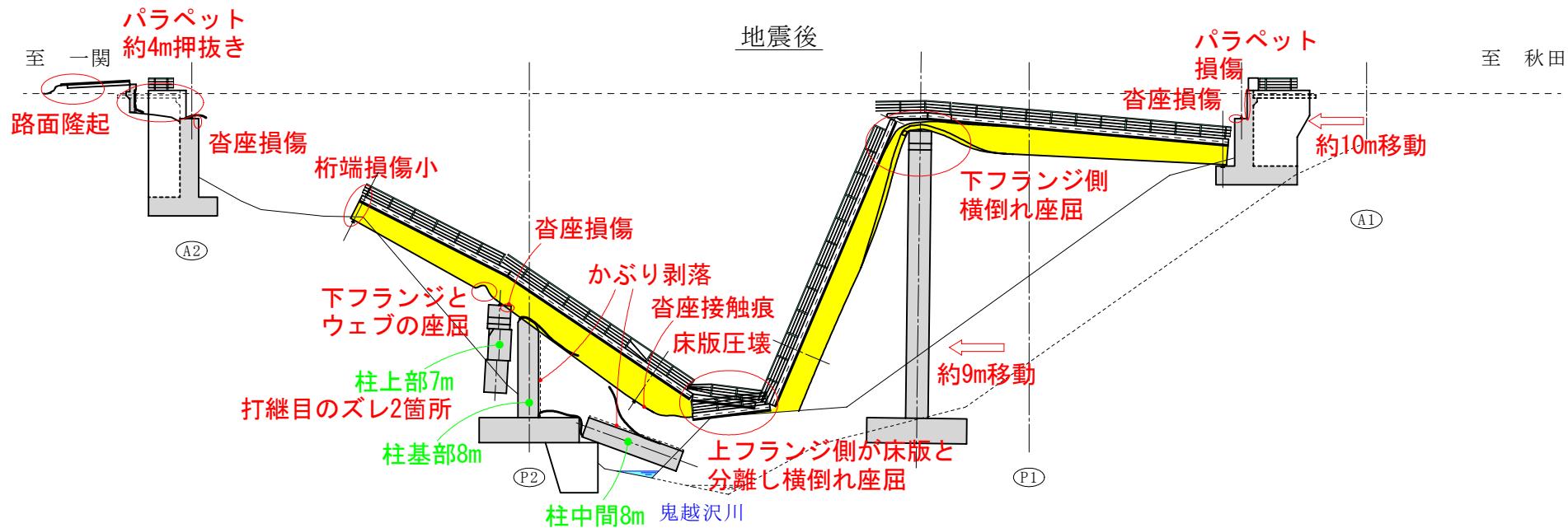




写真-1 下流側外桁のA2支承

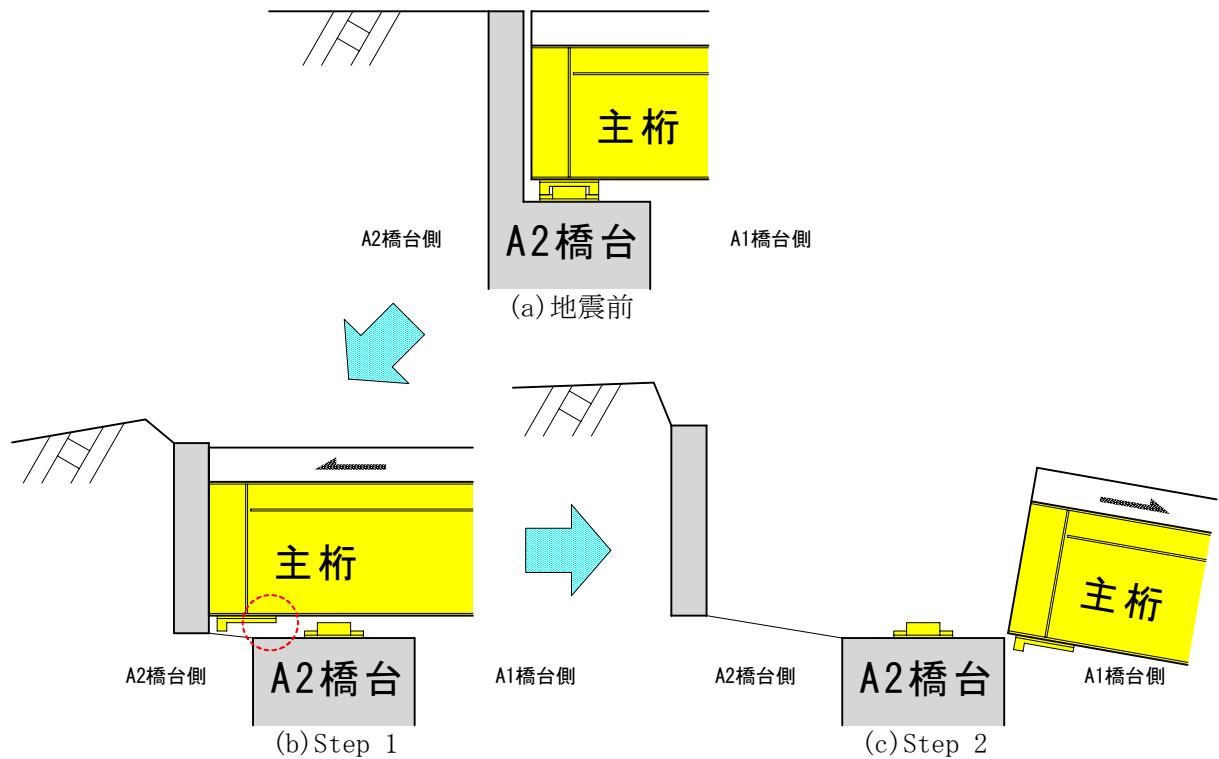


図-1 A2橋台



写真-2 下流側外桁の P2 支承と下フランジ

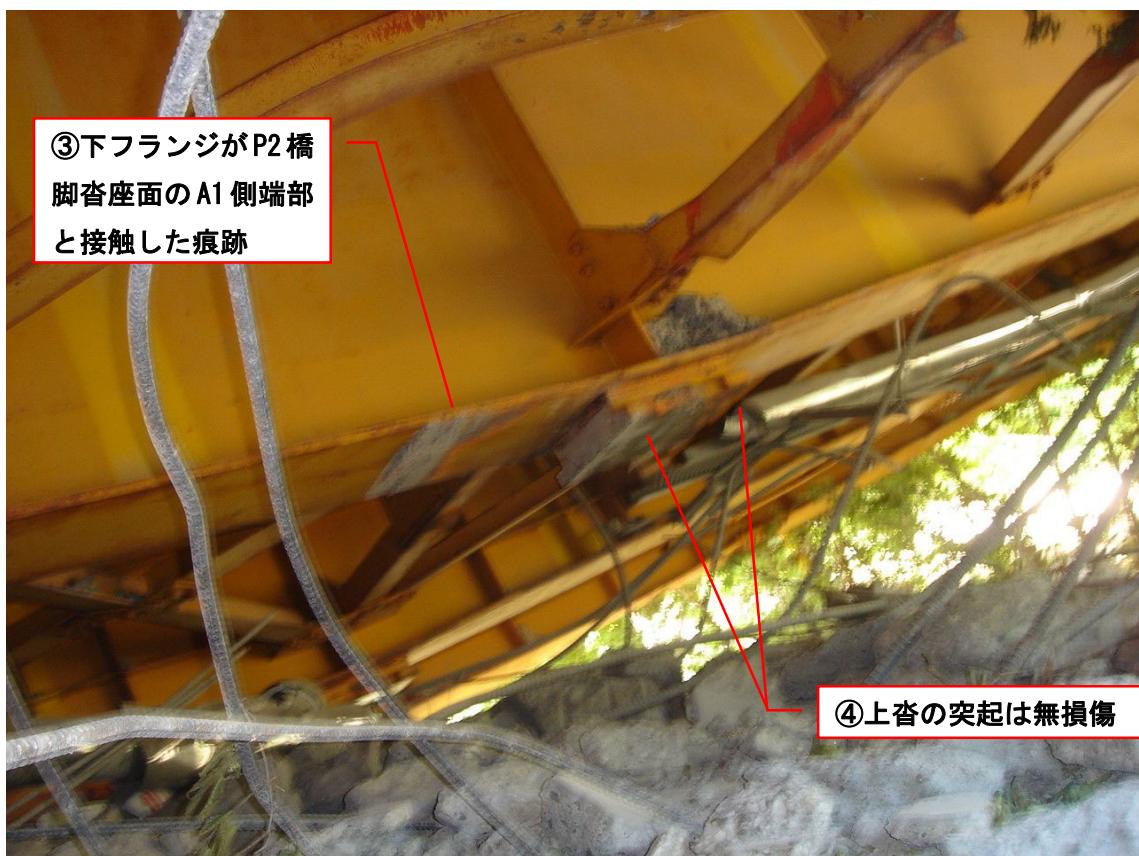


写真-3 下流側中桁の P2 支承



写真-4 P2 支承下流側と沓座面

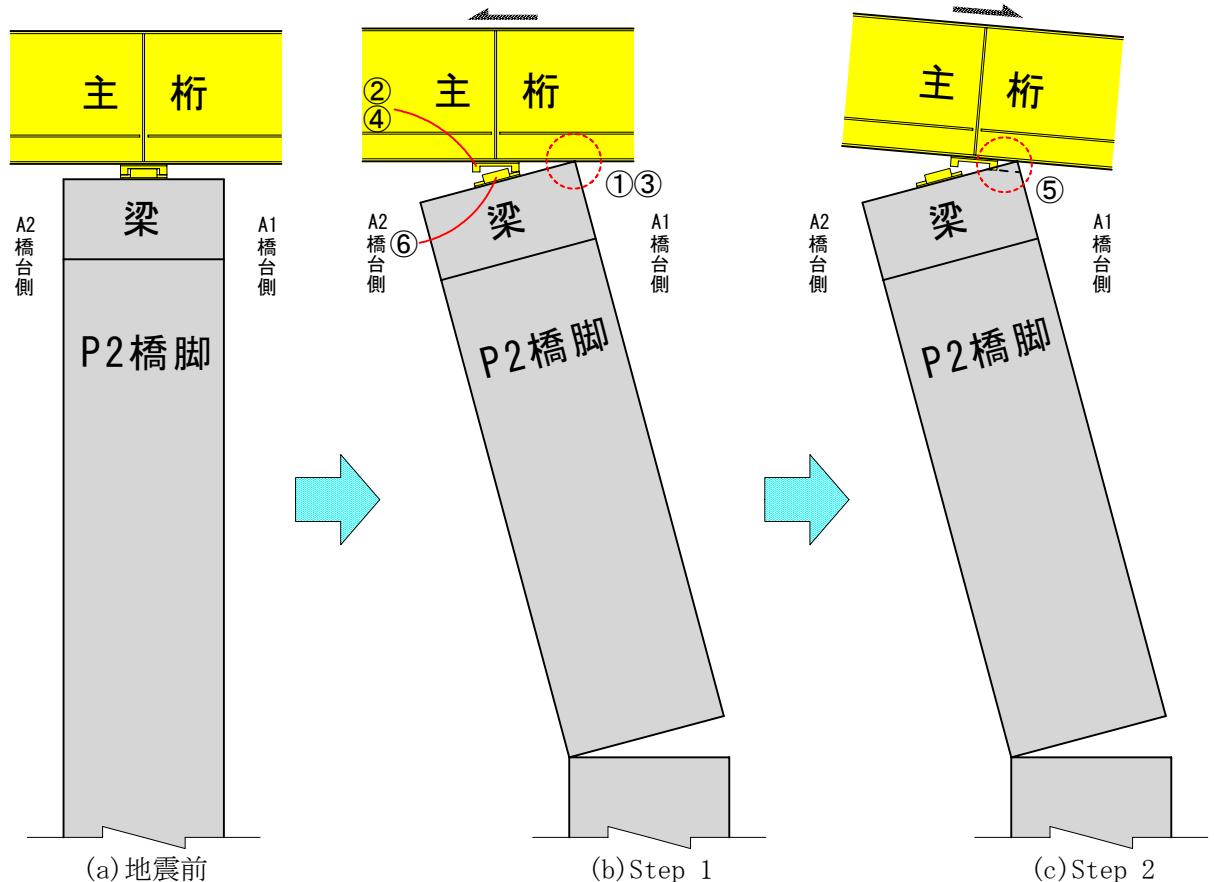
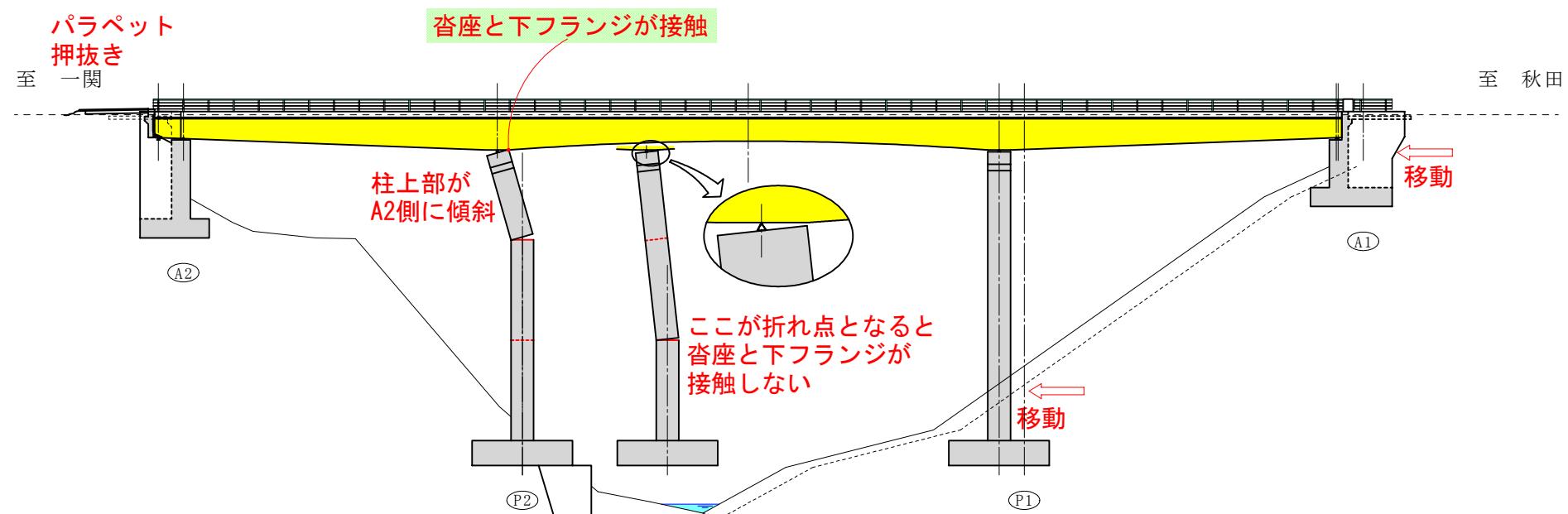


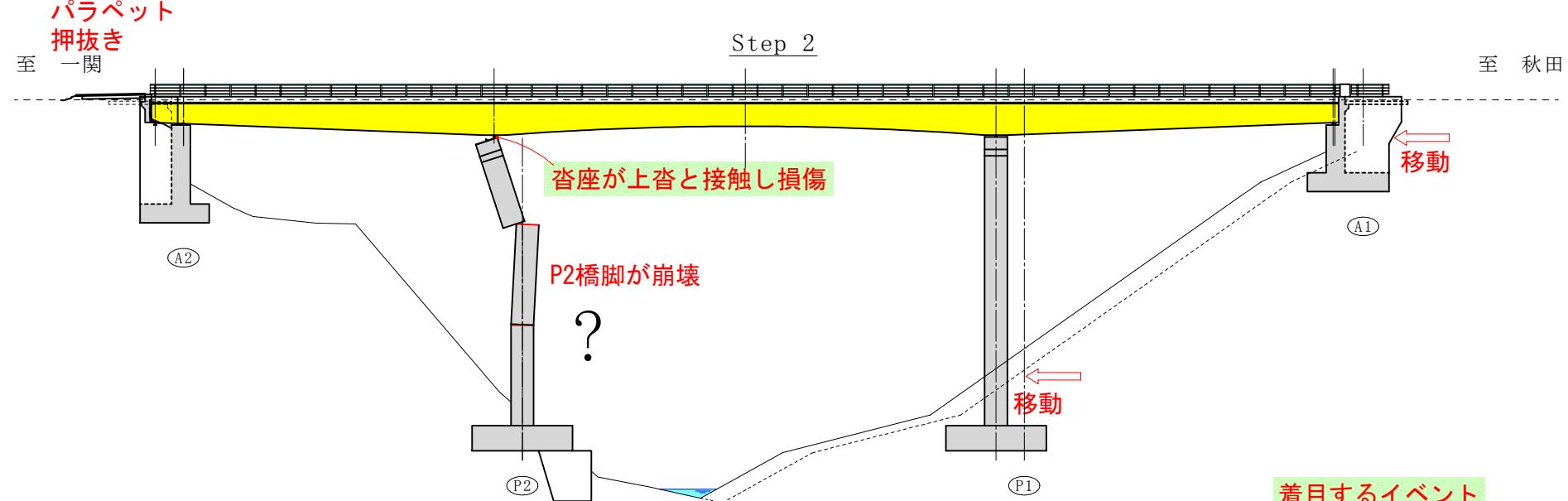
図-2 P2 橋脚

# 国道342号 祭時大橋側面図

Step 1

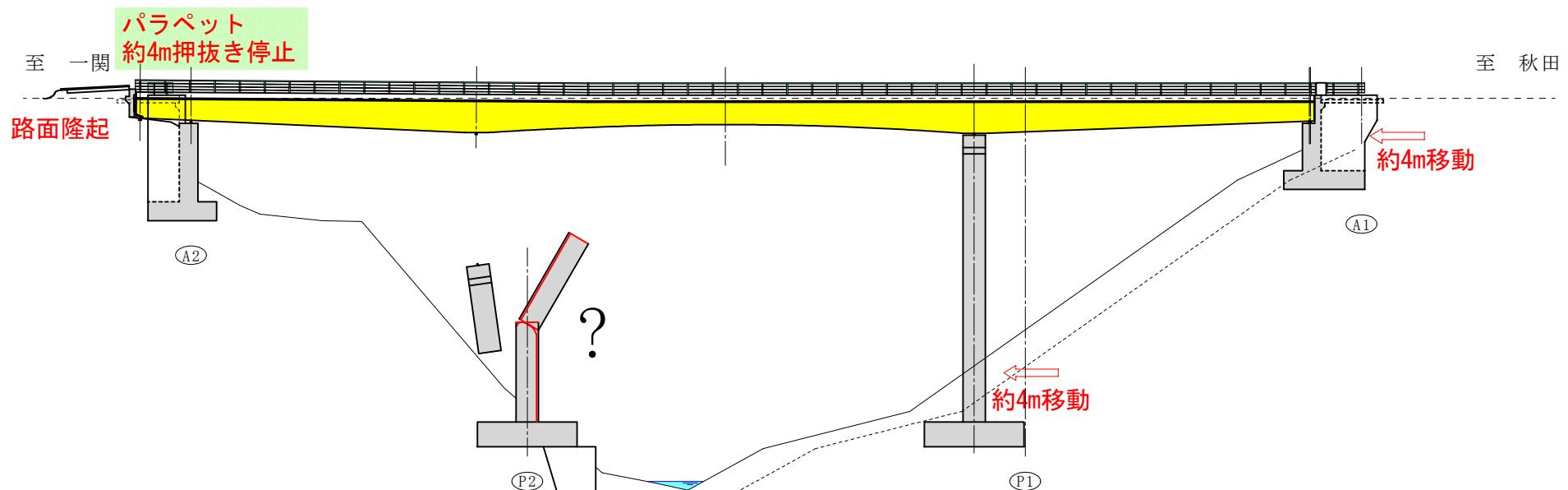


Step 2

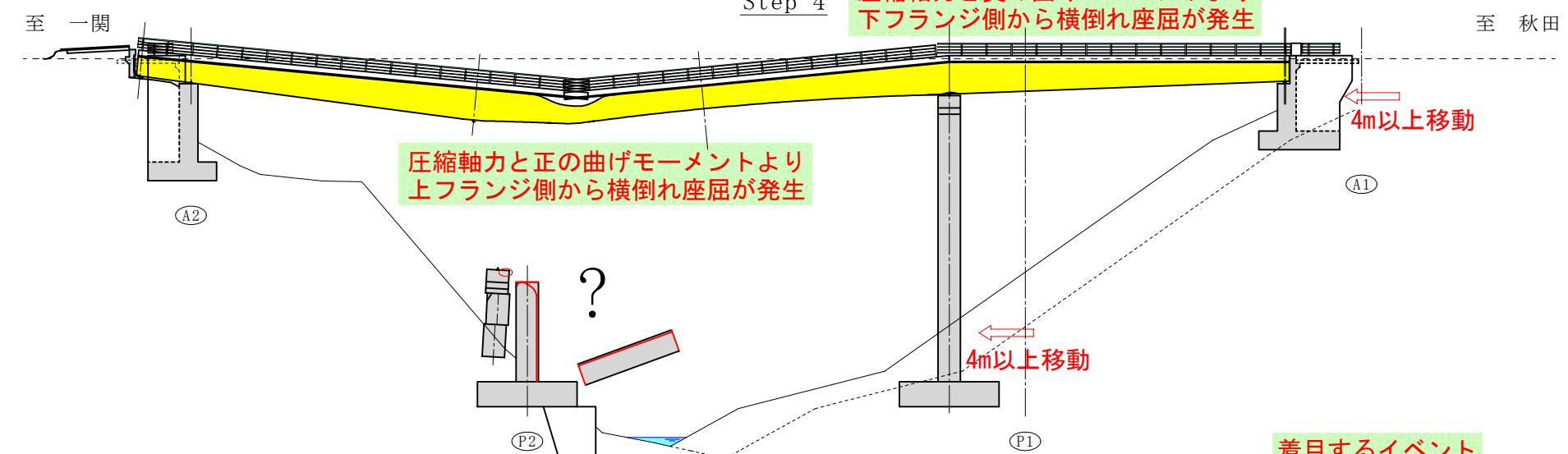


# 国道342号 祭時大橋側面図

Step 3



Step 4



# 国道342号 祭時大橋側面図

Step 5

